

教育 広報 いわき

編集発行
福島県教育庁
いわき教育事務所
発行責任者
水野達雄
編集協力
いわき市教育委員会

躍動！「チームふくしま」



学校・家庭・地域が目標を共有し、共に力を合わせチームとして福島県全体の教育力を高めていくという視点から「躍動！『チームふくしま』」を推進テーマとして掲げ、引き続きふくしまの再生に向けた教育の推進をまいります。

学力向上推進支援事業の取組

理数教育優秀教員活用事業

全国学力・学習状況調査の結果から、理数教科の学力向上や、教員の指導力向上が本県の課題としてあげられます。課題解決へ向けて、教員の授業力向上は必要不可欠になります。授業改善のために、小・中学校の算数・数学、理科を専門とする教員（コアティーチャー）による授業研修会を開催しました。



中学校2年生の数学「関数」領域の授業研修会

授業参観後に、自校の課題をもとに研究協議が行われ、授業改善の視点や方策について行政説明を行いました。

●研究授業参観

小・中学校のコアティーチャーが、「自分の考えを書く活動」「友だちの考えに寄り添い、理解する活動」「根拠を明確にして説明する活動」等、言語活動の充実を図りながら、活用力を高める授業を行いました。児童生徒の考えをつなげるコーディネートのある方や、視聴覚教材の有効性等を学ぶことができました。

●事後協議会

授業から、児童生徒が主体的に問題解決をするための大切にしたい視点について、協議を行いました。日頃の授業の振り返りを行いながら、児童生徒の興味関心を高め、自力解決への見通しを持てる導入の工夫や、活用する力を伸ばすための習熟の時間のあり方などについて、熱心な協議が行われました。



小学校5年生の理科「理科学習指導プラン」を活用した授業研修会

算数・数学学力向上のための指導主事派遣

今年度より、算数・数学科の指導力向上を目的とした、義務教育課指導主事による学校訪問が行われています。児童生徒に、算数・数学科における知識・技能の確実な定着と、それらを活用して課題を解決する力を育成するために、5年間をかけて県内全公立小・中学校を訪問します。

先生方が、児童生徒の学びを見取り、考えを引き出しながら、一人一人の理解につなげる指導ができるように、各校の課題やニーズに応じたきめ細かな指導を行ってきました。今年度はいわき市内16校の学校訪問を行いました。これまでの指導から特に次の3点については、域内全ての小・中学校が同一歩調で取り組めるようお願いします。

- 児童生徒の「問い」を大事にした学習課題の設定
- 本時の問題解決に必要な既習の内容について、児童生徒が想起できるような手立て
- 「つまずき」を理解し合い、話合いの中から正答へ導く授業展開の工夫

学期末には学校訪問からみえてきた「確かな学力」の向上を図るための授業ポイントについてまとめ、県内全公立小・中学校へ配付しました。

指導を受けた先生方からは、「授業場面での具体的な指導をいただけて参考になった。」という声が聞かれ、授業改善・指導力向上の一助になったと考えます。

今後も、指導力向上へ向けて「児童生徒の思考に寄り添った授業展開」「論理的思考を育むための言語活動の充実」など、先生方のニーズに応じた指導を行っていきます。学力向上のためには、まとめのこの時期が、とても重要です。3学期や、1年間の学習内容の確実な修得に力を注いでほしいと思います。



「啐啄同時」

いわき教育事務所長

水野 達雄



今年は酉年です。酉で頭に浮かぶのは、禅の「啐啄同時」という言葉です。「啐」は、生まれる前の雛が卵の外へ出ようと内側から殻をつつくこと、「啄」は、親鳥がそれに応じて殻の外側からつつくことです。禅で、機を熟して悟りを開こうとしている弟子に、師がすかさず教示を与えて悟りの境地に導くことを示した教えです。裏を返せば、教育を受ける当事者が、学ぼうという気持ちになっていないところで、周りがいくら教えようとしても効果がないということです。

さて皆さんは、子どもの頃、こんな経験をしたことはありませんか。それは、勉強しようと思っていた時に限って、「遊んでばかりいないで勉強しなさい」と親に言われ、そんな時、「今やろうと思っていたのに…」という思いとともに、全くやる気がなくなってしまった経験です。私は今まで、これは、怠け者のいいわけに過ぎないと思っていましたが、このような反応は、人間としてごく当たり前のことのように、心理学用語で「心理的リアクタンス」というそうです。人間は、自分の行動や選択を自分で決めたいという人間本来の欲求が犯されるとすると、無意識に「抵抗」が発動してくるのだそうです。授業（事業）の導入において、自律性を支援し内発的動機付けを高める

ことが求められるのはそれ故でしょう。

では、どのようにすることが自律性を支援することになるのでしょうか。ただ、じっと我慢して待ってればよいのでしょうか。『人を伸ばす力』（共著：エドワード・L・デシ、リチャード・フラスト）の中に、次のような患者と医師の関わりについての事例があります。「高血圧で薬を飲まなければならないある女性に、医師が薬を毎朝飲まなければいかに恐ろしいことになるかについて厳しく繰り返し説教したが、彼女は薬を飲むのを覚えられず、しばしば緊急治療室に入るはめになった。新しい医師に代わり、その医師が、時間をかけて彼女と話し合い、一日のうちで何時に薬を飲めばよいかを彼女自身に考えさせ、自分自身で薬を飲む方法を選択することのできる機会を提供したところ、驚くほどの効果を上げた。選択する機会を与え意思決定への参加を促進したことが彼女の自律性を支え、彼女の内発的動機付けを高めたのである。」

「心が動けば頭も体も動く」「心に響く指導」今、子どもたち、そして、教職員の心を動かす取組みが求められています。そのために、相手との信頼関係とともに、様々な場面において意思決定への参加を促すことが大切であると考えています。

総務社会教育だより

「ふくしまの未来をひらく読書のカプロジェクト」読書活動支援者育成事業

この事業は、読書ボランティアの人材育成を図るとともに、ボランティア経験者の実践力の向上を目指すことを目的としており、基礎編とステップアップ編の2回の研修会を実施しました。

基礎編研修では、いわき総合図書館職員の村木寿美礼氏から「子どもと本との出会い」と題して、いわき市立図書館の様々な取組を紹介していただきました。また、JPIC読書アドバイザーの児玉ひろ美氏から「はじめての読み聞かせ～ポイントとコツ～」と題して、お薦めの絵本の読み聞かせの実演をおして必要なスキルを学びました。

ステップアップ編研修では、科学読物研究会の坂口美佳子氏から「科学の本っておもしろい！」

と題して、科学実験や工作を交えながら、科学の本の楽しさを教えていただきました。また、ハックルベリーブックス代表の奥山恵氏から「選書と子どもの本について（思春期）」と題して、これまでにどんな文学が誰を対象に広まってきたのかを整理し、思春期における読書について学ぶことができました。

来年度も読書活動支援者のニーズに合った研修を企画しますので、是非ご参加ください。



子どもたちの豊かなころも はぐくみます

不登校・いじめ等対策推進事業研修会

東日本大震災・原発事故以降、不登校やいじめ等による児童生徒の問題行動が、複合化・多様化しています。これらの背景や要因としては、社会の大きな変化に伴い、インターネット上の人間関係のトラブルやネット依存が指摘されています。今後、学校と関係機関の連携・協力をさらに強化し、効果的な支援体制の充実を図ることが求められています。

こうした背景を受け、県教育委員会としては「不登校・いじめ等対策推進事業」を新たに立ち上げました。いわき域内では、7月8日と8月29日の2日間「不登校・いじめ等対策推進事業域別研修会」を実施しました。

不登校については、新たな不登校を出さないための視点の一つとして、教育相談体制の充実があげられることから、不登校の事例に基づき、教育相談担当教員・SC・SSWの協議をとおして、未然防止について情報を共有しました。

いじめについては、各校で策定している「学校いじめ防止基本方針」の見直しや、ネットいじめの現状と学校・保護者の関わりについて学びました。また、中学校区を単位としたグループ協議を行い、情報交換や課題の共有化を図りました。

今回の研修会は、域内各小・中学校悉皆で行いました。各校の生徒指導委員会等を活用し、全ての教職員に伝達し、不登校・いじめ等についての理解を深めてほしいと考えます。

管理担当より

学校事故防止に向けた取組をお願いします。

冬季間の交通事故防止に万全を

- 法定速度を守っていますか。
- 時間にゆとりをもって通勤していますか。
- 車間距離を十分にとって運転していますか。
- 冬タイヤを着用していますか。

学校火災事故防止に万全を

- 日々の巡視確認を確実にしていますか。
- 安全点検、防火診断はマンネリ化していませんか。
- 火気点検の重層チェックはできていますか。

個人情報の管理に万全を

- 校内規定に従って個人情報を扱っていますか。
- 個人情報を、無許可で学校外へ持ち出していませんか。
- 個人のパソコンに、個人情報は残っていませんか。

「障害者差別解消法」の施行とこれからの課題

「障害者差別解消法」は、「障害者の権利に関する条約」の批准に向けて整備された法律です。条約の教育分野には、障がいのある者と障がいのない者が、同じ場で共に学ぶことを追求するという理念の基、インクルーシブ教育システムの構築を求めており、個人に必要な合理的配慮の提供が必要であるとされています。

施行された「障害者差別解消法」には、差別的取扱の禁止と合理的配慮の不提供の禁止について定められています。また、障がい者の社会参加を前提としていないために生じる制限を「社会的障壁」と呼び、それを除去するための具体的な変更や調整を「合理的配慮」とし、障がい者の権利として保障しています。

学校が合理的配慮を提供する際には、一人一人の障がいの状態や教育的ニーズに応じて決定し、個別の教育支援計画に明記することが重要となります。また、提供にあたっては、体制面、財政面において、均衡を失ったり過度な負担となったりしない範囲で提供するとともに、提供が難しい場合は、実現可能な代替え措置を提案するなど、合意形成を図ることが望ましいとされています。

大切なことは、提供した合理的配慮が、障がいのある子どもにとって、十分な教育を受けられるためのものになっているかという観点で評価し、見直していくことです。さらには、共に学び合い生きる中で、合理的配慮の公平性を確保しつつ、互いに尊重し支え合う豊かな心を育むことを、学校が率先して進めることです。これらの取組こそが、インクルーシブな社会を形成する礎となり、学校の役目であるといえます。

募集 教員免許状等お持ちの方をご紹介します!

平成29年度、いわき市内の公立学校（小・中学校、高等学校）の臨時的任用教職員及び非常勤講師の希望者を募集しています。

○区分

- ①臨時的任用教職員
- ②非常勤講師

○内容

- ①欠員補充や産前産後休暇、育児休業、退職等の代替のために、臨時的に勤務する常勤の講師及び養護教諭、事務職員、栄養職員
- ②あらかじめ定められた教科の授業を行う等の非常勤の講師

問い合わせ先/いわき教育事務所管理担当
☎0246 (24) 6216



数学が好きな生徒の育成を目指して

いわき市立赤井中学校

教諭 黒沢 昭子

今年度は、数学科コアティーチャーとして、貴重な学びの機会をいただきました。若い講師の先生方の授業を参観し、初めは緊張や不安な感じが感じられ、少し心配もありました。しかし、工夫が凝らされ、生徒一人一人を大切にされた授業へと変化するにつれ、数学を学ぶ楽しさが教室中にあふれるようになりました。生徒が持つわかるようになりたい「できるようにになりたい」という数学への知的好奇心を刺激するのは、教えるテクニックだけではないことを改めて教えられました。

「わかった」から「できた」に繋げる活動。「考えてみたい」「解いてみたい」という気持ちで向き合える課題の提供。「知っていること」「できること」をどう使うかを考え、判断し、表現する力の育成。そして、「どのように学ぶか」という学習プロセスの全てが学びのチャンスと捉える学習集団づくりを、先生方と共に進め、数学の楽しさを追究していきたいと思います。



多くの出会いに支えられ

福島県立聾学校平分校

教諭 松浦真由美

私が特別支援教育コーディネーターとして、地域支援に携わり、3年になります。これまで、市内の保育園や幼稚園、小学校への訪問や聾学校への来校相談を通して、たくさん子どもたちや先生方、保護者の方々との出会いがありました。

これまで、子どもたちの「知りたい、わかりたい」という気持ち、先生方の「子どもたちの力を伸ばしたい」という思い、保護者の方々の「我が子の将来に対する期待や不安」等、様々な思いや願いにふれてきました。そのたびに、責任と共にやりがいを強く感じてきました。これまでの出会いから、それぞれの思いにふれることで、決して一方的な支援ではなく、相談者のニーズや主体性を大事にし、「共に考える」ことが大切であることを教わりました。

これからも「出会い」を大切に、「共に学ぶ」気持ちを持ち続けていきたいと思います。

総務担当より

「児童手当について」

中学校修了前（15歳に達する日以後最初の3月31日までの間）の子を養育している方には、児童手当が支給されます。子どもの出生など、受給資格を備えたときは、その日の属する月の末日まで（月末の出生などやむを得ない場合は事実発生日から15日以内）に、認定請求書を所属担当者まで提出してください。新規認定時は、所得制限限度額の確認のため、「所得証明書」等の提出が必要です。

児童手当の支給額

児童の年齢	手当額（1人あたり月額）
3歳未満	一律 15,000円
3歳以上 小学校修了前	10,000円 (第3子以降は15,000円)
中学生	一律 10,000円

※手当を受ける人の所得が所得制限限度額以上の場合は、「特例給付」として、月額一律5,000円が支給されます。

各種表彰(敬称略)

- ◆**学校体育・学校保健関係功労者表彰**
長谷川 徹 (大野中学校歯科医)
- ◆**永年勤続表彰** 92名
(小45名 中22名 高18名 特支7名)
- ◆**教育・文化関係表彰特別功績者「特別功績団体」**
錦小学校吹奏楽部
勿来第一中学校報道委員会
- ◆**教育・文化関係表彰特別功績者「優秀教職員」**
堀越 陽子 (郷ヶ丘小教諭)
渡辺 幸夫 (御厩小主任主査)
加瀬 丈子 (植田東中養護教諭)
- ◆**福島県教職員研究論文表彰**
入 選 矢内 文博 (久之浜一小教諭)
- ◆**キャリア教育優良教育委員会文部科学大臣表彰**
いわき市教育委員会
- ◆**子どもの読書活動優秀実践校文部科学大臣表彰**
長倉小学校
- ◆**優良PTA文部科学大臣表彰**
草野小父母と先生の会
- ◆**ふくしまっ子ごはんコンテスト**
最優秀賞 会田 安那 (大野中3年)
優良賞 平子ほほみ (泉小6年)
根本カノン (久之浜中1年)
アイデア賞 岡田 航 (大浦小1年)
赤木さくら (赤井小3年)
学校賞 泉小、平一中、中央台南中、四倉中、田人中



◆ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業

- 【絆部門】
最優秀賞 坪根 未空 (藤間中3年)・智恵子(母)
優秀賞 野口 葵衣 (藤間中1年)・鈴木 文夫(祖父)
佳作 大和田夏帆 (好間中2年)・真帆 (磐城高1年)

- 【復興部門】
最優秀賞 大嶋 花音 (中央台北中2年)・音生 (郷ヶ丘小4年)
佳作 上田 雅也 (久之浜一小4年)・知佳(母)
鈴木向日葵 (田人小6年)・宏美(母)

◆算数・数学ジュニアオリンピック

- 金メダル 酒井 宏樹 (中央台北小6年)
- 銀メダル 野口凜々子 (郷ヶ丘小6年)
- 関内 悠輝 (中央台北中1年)
- 長瀬 和真 (藤間中2年)
- 内藤 雅裕 (平一中3年)
- 大内 玲奈 (勿来一中3年)
- 鈴木貴太郎 (いわき秀英中3年)
- 銅メダル 加茂 雄斗 (郷ヶ丘小5年)
- 塩田 玲奈 (泉北小5年)
- 二瓶 凜音 (泉小6年)
- 安島 瑠璃 (勿来一小6年)
- 藤枝 碧斗 (小名浜一中1年)
- 有働凜太郎 (いわき秀英中2年)
- 奨励賞 富樫 蒼空 (御厩小5年) 渡邊 柗斗 (鹿島小5年)
- 本多 春弥 (湯本二小5年) 小林 奈央 (中央台東小6年)
- 瀬谷 航平 (豊間小6年) 吉田 萌 (小川小6年)
- 脇田 結海 (泉小6年) 山田 慶徳 (勿来二中1年)
- 下山田智也 (上遠野中2年) 赤津 裕哉 (いわき秀英中2年)
- 櫛田 豊 (勿来一中3年) 安倍 昂汰 (勿来一中3年)
- 鈴木 彪雅 (いわき秀英中3年)

